

政策・施策の点検結果について

1 点検の趣旨・実施手法

- 京都市の総合計画である「京都市基本構想（2001－2025）」及び基本構想に基づく第3期の計画である「京都市基本計画（2021－2025）」は令和7年が終期
- 「突き抜ける世界都市 京都」の実現に向けた政策立案に当たり、現行の京都市基本計画「はばたけ未来へ！ 京（みやこ）プラン 2025」におけるすべての政策分野（27 分野）において、現状分析・今後の方向性の検討を実施
- 上下水道局においても「27 暮らしの水」の政策分野について、改めてこれまでの取組を総括するとともに、現状や課題等を踏まえた今後の方向性を検討
- 令和6年度第1回京都市上下水道事業経営審議委員会での御意見等も踏まえ、別紙のとおり取りまとめ、市政全体の点検結果とあわせて、令和6年9月の総務消防委員会に報告

2 「暮らしの水」の点検結果

別紙のとおり

3 今後のスケジュール

市民や有識者の方々との対話を重ねながら、令和6年3月から半年間行った市政の内容、市役所職員の役割や市政・意識の点検の結果、更には、2050 年を展望する長期ビジョン（次期総合計画）策定に向けた議論が始まる中での中長期の課題も見据えたうえで、行財政改革計画（終期：令和7年度末）を前倒しで改定し、令和9年度までに取り組む政策や、政策を推進するためのしごとの仕方改革、財政・組織体制の今後の方針を示すものとして「新京都戦略」を作成している。

令和6年12月	「新京都戦略」（骨子）作成、パブリック・コメントを実施
令和7年2月	「新京都戦略」（案）作成・公表
3月	「新京都戦略」策定

政策分野 2 7 くらしの水

1 現状分析

(1) 安心安全な上下水道の構築と水環境の保全等に配慮した取組の推進

成 果

- 水道管路は、平成 23 年の東日本大震災や洛西地域における腐食土壌下での漏水事故を契機に、更新率を段階的に引き上げ(令和 4 年度実績は 1.3%。大都市(指定都市及び東京都)の中で 3 番目に高い。)、更新・耐震化を実施。
- 水道の主要管路の耐震適合性管の割合は、令和 4 年度末で 59%。
- 下水道管路は、老朽化した管路や緊急輸送路下等の重要管路の中で、特に破損等のリスクが高い旧規格管路について、調査のうえ優先度を踏まえた改築更新・耐震化を実施。
- 合流式下水道について、令和 5 年度末で改善率 100%を達成。

課 題

- 水道管路経年化率(法定耐用年数 40 年を超過した管路の占める割合)は、大都市の中で 2 番目に高く、下水道管きょ経年化率(標準耐用年数 50 年を超過した管きょの占める割合)も大都市の中で 5 番目に高い状況。今後も老朽化した水道及び下水道管路が増加し、更新を行わない場合、20 年後には大半が老朽化([水道管路経年化率]75.4%、[下水道管きょ経年化率]83.1%)。更新を進めるためには莫大な事業費が必要。

(2) 雨に強いまちづくりや水と共に生きるまちづくりの推進

成 果

- 浸水対策として花見小路幹線、新川 6 号幹線、伏見第 3 導水きょ等の雨水幹線等の整備を着実に実施し、令和 4 年度末の雨水整備率(5 年確率降雨(1 時間当たり 52mm))は全国平均(62%)を大きく上回る 91%を達成。
- 普通河川については、過去に浸水履歴があり対策が必要な 8 河川のうち、7 河川で対策を完了。都市基盤河川も 17 河川で着実な整備進捗(進捗率 64%)。排水機場においても計画的な整備更新を実施。
- 魅力ある水辺環境の創出を図る高瀬川再生プロジェクトについて、護岸の補修工事により水量を確保し、将来にわたって高瀬川とその景観を保全(一之舟入から五条通までの整備が令和 3 年 1 月に完成。現在、五条通以南の整備を実施中)。

課 題

- 近年頻発化している大雨により市内では浸水被害が生じており、引き続き、雨水幹線等の整備や河川改修など浸水対策が必要。また、排水機場が、現在、整備・更新の集中期を迎えており、財源の確保が必要。

(3) 上下水道事業に対する満足度の向上や経営基盤の強化・安定

成 果

- 老朽化した管路・施設の更新・耐震化や雨水幹線の整備等を推進するとともに、ライフライン広報や手続きのオンライン化等、事業への理解促進やお

客さまの利便性・サービスの向上に取り組んだ結果、定期的を実施している「水に関する意識調査」では、上下水道事業に対する満足度が 70.7%（令和 5 年度）と高水準を維持。

- 上下水道事業経営ビジョン（2018-2027）の前期プラン（2018-2022）においては、企業債残高の目標を 93 億円上回る 784 億円削減。また、組織の再編や事業所の集約により生じた空き施設等を積極的に売却・貸付し、約 136 億円の収入を確保。

課題

- 人口減少による水需要の減少（ピーク時から水道・下水道とも 20%以上減少）に伴う水道料金・下水道使用料収入の減収（ピーク時から水道は約 40 億円、下水道は約 70 億円の減収）の一方、老朽化施設の増大と更新財源の確保が必要であり、経営環境は厳しさを増している。
- ビジョンで目指す更新財源となる積立金の令和 9 年度目標額（各事業 200 億円）は、新型コロナの影響による減収に伴い、水道事業では 180 億円、下水道事業では 160 億円にとどまる見通し。
- 安価な水道料金・下水道使用料を維持するため、建設財源の多くを企業債に依存してきたことから、その残高は収入の約 6 倍。特に水道事業では、大都市平均を大きく上回る状況。

2 今後の方向性

(1) 安心安全な上下水道の構築と水環境の保全等に配慮した取組の推進

- 水道管路については、災害時等に広範囲に影響を及ぼす口径の大きい配水管の更新割合を増加させるなど、これまで以上に優先度を考慮して更新を進めるとともに、耐震性の劣る初期ダクタイル鋳鉄管の令和 14 年度末までの解消を目指す。
- 下水道管路については、老朽化した管路や重要な管路の中でも特に破損リスクが高い旧規格の管路を対象に、計画的な調査及び改築更新・耐震化を推進する。

(2) 雨に強いまちづくりや水と共に生きるまちづくりの推進

- 近年の頻発化、激甚化している災害に備えるため、引き続き、国、京都府等と連携を図り、河川や雨水幹線等の着実な整備を進めるとともに、「流域治水」の考えの下、各局区が連携した「雨に強いまちづくり」を引き続き推進する。
- 排水機場について、長寿命化計画に基づき、予防保全を行いながら延命化に努め、更新・整備費用の縮減や平準化を図る。加えて、水に関する市民の意識を高める取組等を進める。

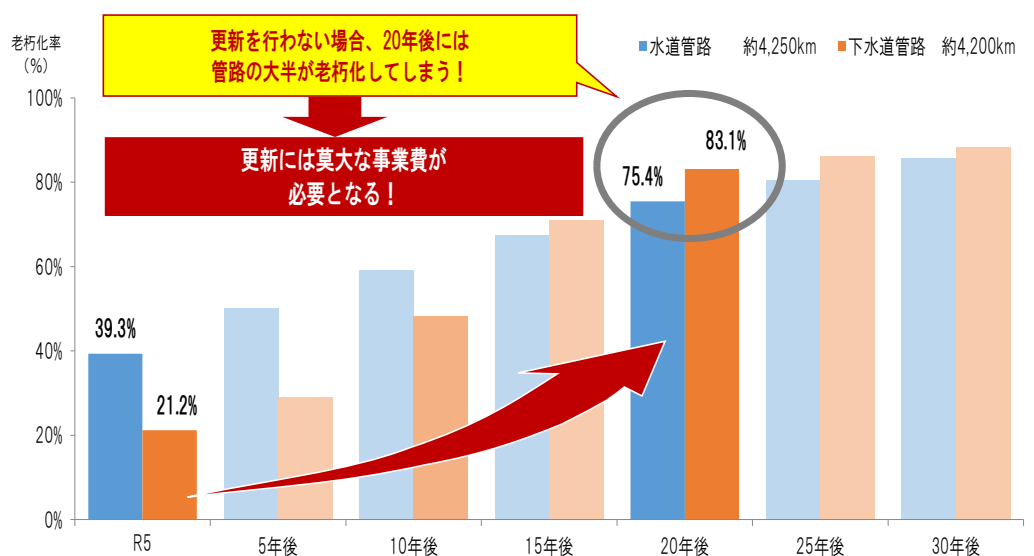
(3) 上下水道事業に対する満足度の向上や経営基盤の強化・安定

- 今後、老朽化した水道・下水道管路が増加していくことを踏まえ、令和 4 年度に上下水道局に設置した「施設マネジメント推進プロジェクトチーム」で、将来の適正な事業規模を把握し、事業費の平準化に向けた検討を行うとともに、世代間の負担の公平性等を考慮した、企業債に過度に依存しない健全な事業運営を行う。

- 厳しい経営環境においても、将来にわたって安全・安心な上下水道を維持するため、効率的・効果的な事業運営を行いながら、技術の継承とともに、デジタル技術の活用や広域化・広域連携に係る検討など長期的な視点での取組を進め、経営基盤の強化を図る。

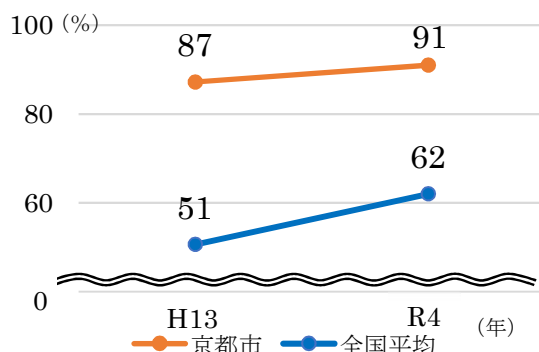
<関連データ>

(水道・下水道管路の老朽化見通し)



(出典：京都市)

(雨水整備率 (5年確率降雨))



(出典：京都市)

(水道・下水道の使用水量の推移)



(出典：京都市)

(参考) 市政全体の点検結果 (抜粋)

地域コミュニティにおけるつながり・支え合い	
課題	・人口減少などによる地域活動の担い手不足 ・地域のつながりの希薄化・孤立化
強み・可能性	・地域や企業、大学、福祉団体などが交ざり合う、新たなコミュニティの形成
今後の方向性	・誰もが気軽に地域活動に参加でき、相互に交流できる機会を創出 ・地域と多様な人々が交ざり合う社会へ

若い世代に選ばれる子育て・教育環境	
課題	・就職期や結婚・子育て期の市外流出 ・子ども・若者や子育て世帯の居場所に対する需要の多様化
強み・可能性	・全国トップ水準の学力や大学のまちなど、京都ならではの子育て・教育環境
今後の方向性	・若者・子育て世代から、「住みたい・働きたい・活躍したい」と選ばれるまちであり続けるための取り組みを推進

文化を基軸とした豊かさの向上	
課題	・コロナ禍で、文化の担い手の労働環境のもろさが露呈 ・文化の担い手や支え手の減少による文化継承の危機
強み・可能性	・国内外の多彩な才能の出会いや交流を通じて多様な文化が開花し、まちの魅力や活力を支えてきた
今後の方向性	・文化をあらゆる政策の基軸とし、文化の力でまちの魅力を高め、多様な人を京都に引きつける

市民生活と観光の調和	
課題	・一部観光地や市バス・道路などの混雑、マナー問題などの観光課題の発生 ・観光課題に対する市民の不満の増加
強み・可能性	・国内外から多くの人々が京都を訪れ、高い評価を獲得 ・一方で、まだ十分に生かしきれていない多様な魅力も
今後の方向性	・市民、観光客、事業者・従事者それぞれにとって満足度の高い「持続可能な観光」の確立

産業・経済の創造拠点としての京都の強みの磨き上げ	
課題	・オフィス空間と産業用地、経営人材の不足 ・地域企業の担い手確保や円滑な事業承継、さらなるD X
強み・可能性	・創造的な企業や人材を引きつける、大学の知や豊かな文化などの存在
今後の方向性	・創造的な企業や人材を呼び込み、地域企業・スタートアップとの掛け合わせによる新たな価値を創出

戦略的なまちづくり	
課題	・歴史や文化、交通利便性などを十分に生かしきれていないエリアが存在 ・京都の歴史や文化等の象徴の1つである京町屋など、歴史的な建造物の減少
強み・可能性	・京都駅周辺で、産業・文化など、多様な民間プロジェクトが始動
今後の方向性	・地域の潜在的な力を生かし、都市の成長や各エリアの魅力向上につながる都市機能の集積と自然的・歴史的景観の保全を戦略的に推進

安心安全で災害に強いまちづくり	
課題	・水害や土砂災害の頻発化・激甚化 ・消防団員数の減少
強み・可能性	・地域の防災を支える自主防災組織、消防団・水防団の存在と、その中での大学生や女性の活躍
今後の方向性	・大規模災害を想定し、国・府、地域と連携 ・市民や観光客の皆さまのいとしとくらしを守る取り組みを着実に推進

環境・自然と調和した持続可能な社会の実現	
課題	・温室効果ガス排出量の削減ペースは鈍化傾向 ・農林業の担い手が減少
強み・可能性	・京都の暮らしや文化などを支える財産である、山や豊富な水源などの身近な自然
今後の方向性	・環境・経済・社会の統合的な課題解決による、生活の質の向上、都市の成長